

こだま新聞

第183号
平成23年1月

歯科と心疾患

ちよつと前の話になりますが、昨年12月に岩手医大の歯科

内科学教授仲居先生を講師に招いて「歯科医の体調管理」という題で講演がありました。先生は循環器内科が

ご専門でしたので、話題は心筋梗塞の話が中心でした。そ

の中で「欠損歯数と心疾患には関連性があり、欠損歯

数が増えるにつれて心疾患は増加する」というくだりがありました。

最近では歯周病と全身の病

気との関連性が話題となっておりますが、私自身も先月体

調を崩した原因が不整脈でしたので、ちよつと気になって

録音してあった先生の講演を

じっくり聴きなおしました。

高齢者（この場合75歳以上）の方は30%の人が血管疾患

か抗原性の疾患を持っています

その治療のために抗凝固剤（血液をさらさらにする薬）を服用しているそうです。

今までは歯科の治療で出血が予想される時（抜歯など）は、事前に主治医に連絡してワーファリンなどの薬を一時的に服用を中止してもらっていました

が、現在では循環器のガイドライン（治療の指針）では服用を止めないというこ

とが大前提となつていて、普通のは

です。私のところでも普通の抜歯では服用を中止させて

いません。

その理由は、ワーファリンの服用が必要な人がワーファリンの服用を中止すると1%の割合（100人に1人の割合）で



脳塞栓（脳の血管に血の塊が詰まる）が出現すると言われているそうです。これは高い出現率です。その結果、手足の運動機能の麻痺や発語障害などが生じてしまいます。

従つてワーファリンを服用しなければならぬ人は服用を中止しないで下さいね。

さらに関連した話題として数年前に東京マラソンで倒れたタレントの話が出ていました。彼の病名は急性心筋梗塞だ

たそうです。たまたま近くにテレビ局のスタッフがいて、適切な救命

処置をおかげで一命をとりとめました。

日本における突然死は年間約5万人。その内、循環器（血管や心臓）に異常が認められたのが70%だそうです。

心筋梗塞から心停止となり適切な救急処置が行われないと突然死にいたるようす。アメリカでは死因の一位が心臓病で、日本でも増加して



いて10年後には日本でも死因の一位が心臓病になりそうな勢いだそうです。

日本人の150万人くらいが心臓病を持っていて、そのうちの50万人くらいが治療を受けていて、その約半数が突然死していると言われました。

心筋梗塞の原因として、遺伝が30%、高脂血症、高血

圧が40%、ストレスが20%という報告があるそうです。

健康な人も数年に一度くらい胸に痛みを感じるこ

とがあるようですが、一過性の不整脈ではなく30分以上持続したときは危険だそうです。

心筋梗塞を起こした人の25%は心筋梗塞を起こす1時間以内に持続した不整脈（心室細動）を起こしている

そうです。心筋梗塞を起こすと、意識消失から血圧低下、そして脳死にいたるので、初期の救急蘇生が重要だそうです。

心筋梗塞を起こす場所は70%が自宅だそうです。その中で一番多いのが入浴時。食事や飲酒をした後で長湯す

るのは禁物。約25%の人が心室細動を起こしているそうです。

心筋梗塞の発生は地震と同じで今は予想がつかない

そうです。対策は事前のスクリーニング。定期的な健診ですね。今は心疾患の治療が進んで

いて治療が可能だそうです。

高血圧の治療で薬を処方されている人は服用を止める

のも心疾患の発生する危険が高まるそうです。

今月の行事

1月

1日〜4日 休診

1日 一日市裸参り

4日 消防出初式

8日 午後休診

8日 湖東3町賀詞交歓会

8日 医聖祭(美富士)

13日 中学校学校保健会

14日 学校保健会理事会

15日 安全安心

21日〜26日 休診

22日 クライン新年会

29日 男鹿南秋歯会